

# コンクリートCO<sub>2</sub>固定化技術「DAC (Direct Air Capture) コート」の実証実験

(代表事業者：清水建設、連携事業者：北海道大学、ゴーレム)

## 事業概要

- ◆CO<sub>2</sub>吸収性能の高いアミン系含浸剤（DACコート）をコンクリート表面に塗布し、大気中のCO<sub>2</sub>を効率的に吸着・固定化する世界初の取組み。中央防波堤に設置した実大サイズの試験体（モックアップ）で、塗布によるCO<sub>2</sub>吸収促進効果や耐久性の検証を行う

## 3カ年の取組

### 年度

### 令和5年度

- DACコートの効果検証に向け、実験設備の整備や実証に使用するモックアップを製作しました。
- CO<sub>2</sub>固定量の算定モデルを構築しました。
- DACコートの概要紹介動画を作成しました。

### 各年度の取り組み

### 令和6年度

- CO<sub>2</sub>固定性能と鉄筋防食効果の高いアミン剤を選定し、モックアップを活用した性能検証を実施しました。
- カーボンシミュレータ開発を進めるとともに、展示会への出展やメディア発信を通じて事業の社会的認知拡大を図りました。

### 令和7年度

- 効果検証を継続するとともに、コート剤の安全性評価試験を推進しています。
- カーボンシミュレータの機能改善を進め、実装に向けて取り組んでいます。
- 展示会やTV取材などの対外発信を強化しています。

### これまでの成果

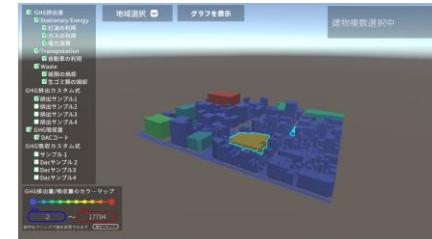
- CO<sub>2</sub>固定効果と鉄筋防食効果の高いアミン剤を特定し、特許出願を完了しました。
- モックアップでの試験により、CO<sub>2</sub>固定量が従来比2倍以上となる結果を確認しました。
- 東京都を想定した算定シミュレーションを実施し、技術紹介動画・リーフレットを制作しました。
- 展示会出展やメディア掲載を通じて、社会的認知の向上を図りました。



実証実験の様子



CO<sub>2</sub>固定量分析サンプル  
と熱分析装置



カーボンシミュレータ



SusHi Tech Tokyo2024 出展の様子

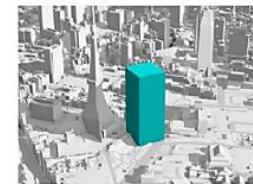
## 将来展開

2026年の初回案件適用を起点に、外販体制の構築・展開を進め、海外展開とカーボンクレジット化を見据える。

特定物件に評価条件を設定し、CO<sub>2</sub>固定成果をシミュレート（イメージ）

評価条件  
物件名  
塗布場所  
塗布面積  
評価年数

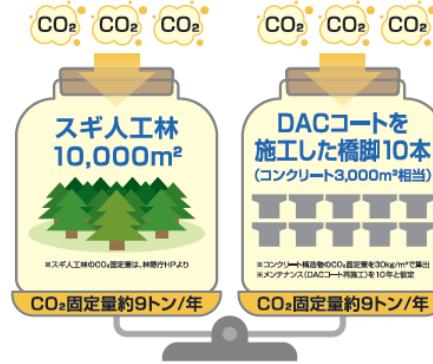
○○○ビル  
OAフロア  
5000m<sup>2</sup>  
40年



※GHG排出やCO<sub>2</sub>吸収量の推移を可視化（イメージ）

DACコート施工の橋脚10本は、スギ人工林10,000m<sup>2</sup>相当の固定量がある

CO<sub>2</sub>吸収体としての価値（カーボンクレジット）



## 社会実装に向けた課題と今後の対応

- 外部環境**：カーボンクレジット目的でのアミン剤活用には業界全体の取組が必要
- 技術実現性**：長期的なデータ取得と費用対効果の明示（CO<sub>2</sub>固定効果・鉄筋防食効果・品質に対する悪影響の有無etc）
- リソース**：継続検証フィールドのほか、2027年以降の需要拡大を見据えた供給体制の構築が求められる。

- 土木工事や自治体の発注において、事業者が環境配慮技術に対してコストを積極的にかけられる動きを作る必要があるため、関連学協会等に積極参画し、ルールメイクに向けたクレジット化や算定手法の提言を重ねる。
- 引き続き2年程度、自社施設等においてデータ取得とモックアップでの検証を行う。
- 販売代理店、メーカー、施工事業者を含むサプライチェーン構築を推し進める。

## これまでの成果や実装に向けた有識者のコメント

- 実験とデータ分析を通じエビデンスが着実に蓄積されている。インフラメンテナンスの重要性が高まる中、都市の広範な人工環境に影響する有望技術であり、市民の期待にも適う。構想の実現に向け、取り組みの継続を期待する。
- 社会実装にあたり、最初からビルや橋梁への適用はハードルが高いため、スマートスタートで塗布しやすいコンクリートから始めて価値を訴求し、市民理解を得るべき
- DACコートが社会にもたらす**価値を明確化**すべき。ユーザーの声を拾い、動画等のチャネル、学識者が集う場での講演等を活用して社会への価値訴求が肝要



- 有望技術であり、今後の進展に注視したい。効果測定には10年程度の長期観測が必須であり、現実証フィールドを継続利用していくべき
- 市場展開にはカーボンクレジット活用が急務である。JCLP等の企業アライアンスの参画を通じて**産業界としての必要性発信を推し進めるべき**
- 長期的なモニタリングを行いつつ、販売単価の見極めなど事業性の検証も推し進めて、早期の社会実装を期待する。

